



中学生の時、初めて我が家にやってきたワープロは、画面はほんの1行が見える小窓。文面のレイアウトなどできず、ただ文字を連ねるだけ。それでも次々ときれいな文字が打ち出される嬉しさに、ひたすら文字を打ち込んでいました。

その後、機器は目覚ましく発達し、文字の大きさや書体、色、文書のレイアウトなど、自由自在に作れるようになりました。まちなかでも、手書きの文字を見る機会はめっきりと減っています。

それでも、レトルトやフリーズドライなど手軽でおいしい食品がいくら出回っても、手作りの味わいは決して色あせないように、いくら便利に文字を作れる時代になっても、手書きの文字も残っていくと思うのです。世の中にも、本山小学校の子どもたちの中にも。

## 分かち合う言葉も こころも ここに ~書道パフォーマンス~

この日、書道家の小山梨風先生が書道パフォーマンスで書いてくださった文字は、「飛翔」「思い出を胸に」「新たな舞台へ」、そして「ありがとう 本山小学校」でした。中には、1年生には読めない漢字も多く含まれています。それでも、小山先生が文字に気持ちを込めた10分間、1年生の子どもたちも固唾をのんで一挙手一投足に見入っていました。右の写真の奥が1年生ですが、どの子も目を離しません。4年生の児童が「魂が一つ一つの文字に込められていて魅力的」と言いましたが、1年生もそれを肌で感じているのでしょう。

そのほかにも、書道パフォーマンスの直後に、子どもたちは、次のような感想を述べました。

- ・すてきな字を書いてくれて、嬉しかったので一生忘れません。(1年生)
- ・小山先生が一つ一つの字を書いている時に、心が温かくなって、涙がでそうになった。(2年生)
- ・今年4月から中学生になるので、このことを思い出しながら頑張りたい。(6年生)

書を通して、小山先生の思いと私たちとがつながりました。

オペラは、舞台美術や音楽、脚本などが融合した総合芸術と言われますが、小山先生の書道パフォーマンスも、書と美術、先生の所作も含めて全てが私たちに語り掛けてきました。作品を創り上げるその背景では、いきものがかりの「YELL」の歌が流れていました(右参照)。

作品を創る小山先生。見入る子どもたち。そこには分かち合う言葉があり、分かち合う時間がありました。漢字が読めなくても、こころからこころへ伝わるものがありました。6年生は、この日のことを胸に抱いて頑張ると誓いました。

今日の書道パフォーマンスは、まさしく「YELL」の時間でした。



【ここにも手書きの味わいが】



僕らが分かち合う言葉がある  
こころからこころへ 言葉をつなぐ YELL  
ともに過ごした日々を胸に抱いて  
飛び立つよ 独りで 未来(つぎ)の空へ  
(いきものがかり「YELL」(作詞:水野良樹)より)

